

読書のすゝめ

その7 H29 5 / 12

5月病を・・・

ゴールデンウィークも終わって、今年度最初の定期考査も近づき、なんとなく憂鬱な・・・というみなさん、大丈夫？日本では、新年度の4月には入学や就職、異動、一人暮らしなど新しい環境への期待があり、やる気があるものの、その環境に適応できないでいると、人によってはうつ病に似た症状が5月の明け頃から起こることが多いため「5月病」の名称があります。その対応策はどうしたらよいのでしょうか？

人それぞれだとは思いますが、そのまま放置しないで、まずは、現在以上にストレスをためないように気分転換を心がけるのが良いのではないのでしょうか。友人とおしゃべりにも疲れたときは、**どうぞ図書館でゆっくり！**

心を癒す一冊

今月の図書館当番（3年1組）さんが、昇降口に

「5月のおすすめ本紹介」の掲示物を作ってくれました。参考にしてください！



「日本一短い「母」への手紙」 福井県丸岡町（角川文庫）・母の日近し・・・

読み書きアート
日本一短い
母への手紙
一筆啓上
A Brief Message
to Mother's Day Letter

平成5年に福井県丸岡町が主催で、日本で初めての試みとして、単なる町興しの為でなく、手紙文化の復権及び昂揚の一環として企画され、一冊の作品集として刊行されたものです。



あなたから もらった物は数多く
返せる物は とても少ない 大和田早都美（北海道 21歳）

父よりも一品多い弁当と、「バスケがんばれ!!」の言葉と、
笑顔の迎えありがとう。 甲田香里（福井県 13歳）

遠くで想うと涙が出る。近くで見ると腹が立つ。
お母さん!! 愛しているよ。 長井英里（石川県 43歳）



「僕は頑固な子どもだった」 日野原重明（ハルメク）

日野原重明
僕は頑固な
子どもだった

「負けず嫌いな性格で、一度決めたことは絶対にやり遂げる。そんなファイティング・スピリット」の持ち主を「頑固」と言い表している。「頑固」とはいうものの、他から学ぶという点で、著者はたいへん謙遜かつしなやかだ。数え切れない著作を世に送り出してきたが、それでも「どうしても書いておきたかった」という、初めての自叙伝。



結核で床に臥した学生時代、薬も設備も足りない中醫師としての使命を全うした戦中戦後、よど号ハイジャック事件からの生還、延べ1300人の患者を救った、あの地下鉄サリン事件。そして最愛の妻を主治医として看取った101歳。この105年には壮大なドラマがある。

「ねないこはわたし」せなけいこ（文藝春秋）



永遠の名作絵本『ねないこだれだ』。誰もが見覚えのある独特の貼り絵、そして夜更かししていた子どもが「おばけ」になって連れていかれてしまうという衝撃的なラスト。

実はこの絵本はせなけいこさんのデビューシリーズ4冊のうちの一冊で、当時37歳、2児の母だった遅咲きのデビュー作が、決定的な代表作となり、せなさんはその後も

「おばけ」の絵本を描き続けることになりました。

その『ねないこだれだ』は、子どもを寝かしつけるしつけの本ではなかった、という驚きの告白からはじまる本書は、せなさんが初めて「自分のことを書いた絵本」。

図書館のペランダにツバメが巣作りしています！

